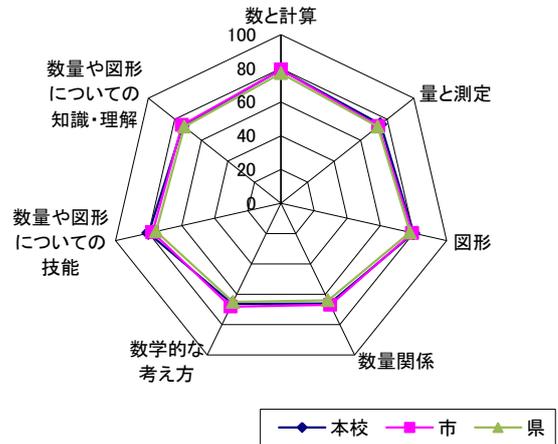


宇都宮市立清原東小学校第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	79.3	79.3	77.1
	量と測定	75.0	73.4	72.9
	図形	80.1	79.4	78.0
	数量関係	66.1	67.0	64.0
観点	数学的な考え方	66.2	68.2	65.1
	数量や図形についての技能	80.0	77.7	75.4
	数量や図形についての知識・理解	73.9	74.5	72.8



★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○平均正答率は県平均を上回る。</p> <p>○帯分数+帯分数の計算の正答率は93%を超えている。</p> <p>●数直線の意味、倍とわり算については理解不十分な児童も見受けられる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的な計算が十分には身につけていない児童も見受けられるので学年をさかのぼった復習も家庭学習に取り入れていく。 文章題については、求めるものは何か、どのような計算になるかを理解させながら練習問題に取り組ませる。
量と測定	<p>○平均正答率は県平均を上回る。</p> <p>○長方形の面積を求める問題の正答率は93%を超えている。</p> <p>●面積の単位に関する問題の正答率は県平均を下回る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 実際の長さ、広さを想像させ復習し、練習問題に取り組ませて定着を図る。
図形	<p>○平均正答率は県、市平均ともに上回る。</p> <p>○84%超の児童が立方体の展開図について理解することができている。</p> <p>●87%超の児童が直方体の見取り図から平行な面について理解することができているものの県平均には5ポイント以上の差をつけられている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 図形に慣れ親しませるために、図形を見たり、かいたりする活動を増やしていく。
数量関係	<p>○平均正答率は県、市平均ともに上回る。</p> <p>○約97%の児童が計算のきまりを使って表に当てはまる数を求めることができている。</p> <p>●棒グラフと折れ線グラフを比べて、変わり方の違いにつて説明できる児童は2割しかない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 複数のグラフから読み取れることをどのように表現したらよいかを国語の表現、社会の資料読み取りの授業とも連携して指導していく。